

# R6年度 自己評価結果公表

## 教育・保育目標及び方針

- ・安定した(丈夫な)心と身体を育み、生活(生きる)する力をつける
  - ・明るい子(誰とでも仲良くでき、感性や創造力が豊かな子)
  - ・強い子(健康で、優しく思いやりがあり、最後まで頑張れる子)
  - ・よく遊ぶ子(自然と親しみ、遊びや運動で身体を鍛え、ルールや約束を守れる子)
  - ・あいさつのできる子(心の通い合うあいさつができ、相手の気持ちに寄り添える子)
- ・子どもの生活や育ちの繋がりを配慮した保育・遊びの中から、自分らしく生きる力を育む
- ・子どもの主体性を大切に、自主性や創造力をつけると共に、自ら様々なことを乗り越えられる力をつける
- ・保育・食育活動を通じて豊かな感性を育み、心も身体も健やかに、のびのびと丈夫で元気な子を育てる

本年度の重点目標『R6年度のテーマ：「ゆう」遊ぶ・友だち・結ぶ・優しい』

### 非指示保育の実践

- 太陽グループ・月グループにて複数職員のもと光保育(チーム保育)を行い、非認知能力・自発性・想像力を育てる。
- ・小学校との連携・接続を図り小1プロブレムを解消し小学校教育への円滑な移行を目指す。可美小学校との連携・保幼小中との連携を図り、職員間で研修をしたり、中学校の授業の見学や職場体験、挨拶運動に来てくれた。地域の年長組が集まり1年生の行事見学・ふれ合い等を通し、より小学校を身近に感じることができた。
- ・教育・保育の可視化をし、質の高い教育・保育を提供するよう職員研修に力を入れる。
- ・安全に配慮し、環境をより良いものにする。(物的環境・人的環境) SDGsへの取り組み導入

項目	評価・課題
教育・保育理念や目標の理解	園の教育・保育理念、教育・保育目標を理解している。
教育・保育内容	教育・保育の全体的な計画・教育課程に基づいて指導計画を立てている。入園から就学まで一貫した教育・保育を展開するに当たり、園児の発達の連続性を考慮している。園児一人ひとりの状況に応じ、教育・保育内容の更なる工夫をしていく。小学校教育への円滑な接続を図るため『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』をふまえて教育・保育を行い、安心安全な保育を提供する。
保健・安全管理	安心・安全を第一に、学校保健法を把握しねらいや内容を理解し、薬剤師のアドバイスを受け、環境をより向上させるよう努めた。園児の事故予防及び救急処置・火災・地震・不審者侵入等を想定した避難訓練などの危機管理を行い臨機応変に対応できるようにしている。ヒヤリハットを活用し事故防止委員会を行い、事故・怪我の防止に努めている。減災教育を実施する。ユレタキャラバン隊により南海トラフ地震に備えた避難の方法など、色々な体験をしながら学んだ。
研修(資質向上の取り組み)	自己が成長するため、意欲を持って参加している。リーダー会議を行い、環境構成の検討・実践や職員のモチベーションを高める職場づくり、次年度に向けた行事等の見直しや取り組みについて話し合い、質の向上に努めていく。
教育・保育目標の設定と自己評価	PDCAサイクルを用いて、教育・保育の内容などの評価を行い課題を見だし質の向上や改善に努めている。今後もPDCAサイクルの実行を継続的に行っていく。
職員間の連携	iPadの活用により確認が取りやすくなり連携を図ることが出来た。クラスミーティングを行うことでコミュニケーションを図り、互いの意見を共通理解したり、情報を共有することが出来た。
保護者との連携	降園時には毎日、各クラスの子どもの様子をモニターで流し保育の可視化をした。ICTを活用して、園での様子を伝え、保護者との信頼関係を十分に築き楽しく子育てができるよう心掛けた。0.1歳児クラスは、より信頼関係を保つ為にクラス会を行った。全体的行事を通して、共に子どもの成長を喜び合うことができた。
地域との連携と子育て支援	感染症予防の為、お年寄りとの触れ合いができずに残念だったが、敬老の日にはプレゼントを届けた。保幼小中と連携を図り交流を活発にでき、関心や楽しみは培えたと感じる。親子ひろば(ぞうさんひろば)では、地域支援ができた。また、一時預かりを実施し、より地域の皆様に寄り添い、保護者の支援に努めていった。
総評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事は最大限の対応の中で、子どもの成長を検討し、子どもにとってより大事な事(自己肯定感・自信)を考慮して行った。子ども主体の非指示保育をより深め実践し、日頃の保育では非認知能力や自己肯定感等をより大事にする質の高い保育を目指した。子どもの「やりたい」を大切にそれを運動会や光フェスティバルでは見て頂けたと思う。</li> <li>・食育では、菜園の収穫やナカミシェフの食育講座、クッキング保育、光ランチ(マナー)と新たに食を科学する食育ラボを取り入れ子どもが興味を持つことができた。子どもがより食への関心が持てるよう取り組んでいる。</li> <li>・SDGsの取り組みが活発になり日常化していくことができた。リサイクルBOXの活用等、SDGsへの関心が高まり子どもや職員にも浸透した。また、不適切保育に対する共通理解を職員全員で話し合い、子どもの人権をより大事にしていくよう確認した。今後も今出来る全てのことに最大限の力で挑戦し続けていきたい。</li> </ul>